

自己記入式症状チェックリスト (ASRS-v1.1)

- 本チェックリストは診察における患者さんとのやりとりを円滑にし、患者さんがADHDの症状を有しているかを確認する目的で作成されています。
- 本チェックリストは成人期ADHDのスクリーニングツールとして利用できます。結果によっては、さらに詳しい臨床面接を考慮してください。
- 詳しい使い方については裏面をご参照ください。

ADHDスクリーニングの重要性

- ADHDの症状は成人になっても持続し、患者さん本人の人間関係や仕事のキャリア、さらに個人の安全にも深刻な影響を与える可能性があります。
- ADHDの患者さんは周囲から誤解を受けやすいため、この障害をもちながらも適切な治療を受けることができず、その結果、自分のもつ潜在能力を最大限に活かすことなく人生を送ってしまう場合があります。
- 問題の一端は、ADHDの診断が、特に成人において困難であるところにあります。
- このスクリーニングを行うことにより、診断プロセスにおける重要な補足情報が5分程度で得られます。

【成人期のADHD自己記入式症状チェックリストについて】

成人期のADHD自己記入式症状チェックリスト (Adult ADHD Self Report Scale; ASRS-v1.1) は、世界保健機関 (WHO) と、Adler氏^{*1}、Kessler氏^{*2}、Spencer氏^{*3}らの研究者からなる成人期ADHD作業グループの協力により作成されました。

ASRS-v1.1の質問事項はDSM-IV-TRでの基準と合致しており、成人期のADHD特有の症状に焦点を当てています。DSM-IV-TRではまた、正しい診断のためには症状や障害、既往歴が重要であるとされており、チェックリストの質問内容はそれを反映しています。

※1: Lenard Adler, MD
Associate Professor of Psychiatry and Neurology
New York University Medical School

※2: Ronald Kessler, PhD
Professor, Department of Health Care Policy
Harvard Medical School

※3: Thomas Spencer, MD
Associate Professor of Psychiatry
Harvard Medical School

ADHD-ASRS Screener v1.1 and ADHD-ASRS Symptom Checklist v1.1 are copyrighted by the World Health Organization. The scale was translated by Toshinobu Takeda, MD, PhD, Ryukoku University.

<監修> 東海大学医学部専門診療学系精神科学 松本 英夫

6項目より構成されているASRSパートAを用いた結果、4つ以上にチェックがついた場合、実際に成人期ADHDと診断される確率が高いことが報告されています (Kessler et al, 2005)。正確な診断は臨床評価によって行われるべきですが、5分程度でスクリーニングが可能となるパートAは、臨床の現場において助けになると考えられます。ASRSパートAの診断テストとしての特性評価では、感度68.7%、特異度99.5%と報告されています。また、内部一貫性(ピアソン相関係数:0.63-0.72)、再テストによる信頼性(ピアソン相関係数:0.58-0.77)も確認されており、さらにROC曲線下面積(AUC: area under the curve)は0.90と報告されており、高いaccuracy(正確性)が示されていることから、ASRSパートAによる

スクリーニングにより陽性となった患者さんにおいては、臨床医による診断と一致性が高いことがわかります (Kessler et al, 2007)。DSM-IV-TRでは、正しい診断のためには症状や障害、既往歴が重要であるとされており、スクリーニングツールの質問内容はそれを反映しています。このスクリーニングを行うことにより、診断プロセスにおける重要な補足情報が得られるものと思います。留意していただきたいのは、ASRSはあくまでスクリーニングツールであり、診断ツールではないことです。ASRSパートAの感度は68.7%と低いことから、本スクリーニングでは約1/3が偽陰性となります。このスクリーニングツールを利用後、慎重にDSM-IV-TRに基づき診断を行っていただきたいと思います。

この症状チェックリストはDSM-IV-TRにある18の基準から成り立っています。全18問中、ADHDの診断を最も鋭敏に予測する6問がわかっており、ASRS-v1.1のパートAはこの6問により構成されています。ASRS-v1.1のパートBは残りの12問で構成されています。

症 状

氏名	日付	全くない	ほとんどない	時々	頻繁	非常に頻繁
下記のパートAおよびBのすべての質問に答えてください。質問に答える際は、過去6か月間におけるあなたの感じ方や行動を最もよく表す欄にチェック印を付けてください。医師に面談する際にこれを持参し、回答結果について相談してください。						
パートA						
1. 物事を行なうにあたって、難所は乗り越えたのに、詰めが甘くて仕上げるのが困難だったことが、どのくらいの頻度でありますか。						
2. 計画性を要する作業を行なう際に、作業を順序だてるのが困難だったことが、どのくらいの頻度でありますか。						
3. 約束や、しなければならない用事を忘れたことが、どのくらいの頻度でありますか。						
4. じっくりと考える必要のある課題に取り掛かるのを遅れたり、遅らせたことが、どのくらいの頻度でありますか。						
5. 長時間座っていなければならない時に、手足をそわそわと動かしたり、もぞもぞしたりすることが、どのくらいの頻度でありますか。						
6. まるで何かに駆り立てられるかのように過度に活動的になったり、何かせずにいられなくなることが、どのくらいの頻度でありますか。						
パートB						
7. つまらない、あるいは難しい仕事をする際に、不注意な間違いをすることが、どのくらいの頻度でありますか。						
8. つまらない、あるいは単調な作業をする際に、注意を集中し続けることが、困難なことが、どのくらいの頻度でありますか。						
9. 直接話しかけられているにもかかわらず、話に注意を払うことが困難なことはどのくらいの頻度でありますか。						
10. 家や職場に物を置き忘れたり、物をどこに置いたかわからなくなって探すのに苦労したことが、どのくらいの頻度でありますか。						
11. 外からの刺激や雑音で気が散ってしまうことが、どのくらいの頻度でありますか。						
12. 会議などの着席していなければならない状況で、席を離れてしまうことが、どのくらいの頻度でありますか。						
13. 落ち着かない、あるいはソワソワした感じが、どのくらいの頻度でありますか。						
14. 時間に余裕があっても、一息ついたり、ゆったりとくつろぐことが困難なことが、どのくらいの頻度でありますか。						
15. 社交的な場面でしゃべりすぎてしまうことが、どのくらいの頻度でありますか。						
16. 会話を交わしている相手が話し終える前に会話をささぎってしまったことが、どのくらいの頻度でありますか。						
17. 順番待ちしなければならない場合に、順番を待つことが困難なことが、どのくらいの頻度でありますか。						
18. 忙しんでいる人の邪魔をしてしまうことが、どのくらいの頻度でありますか。						

1 患者さんに、症状チェックリストのパートAおよびパートBの全ての質問に回答してもらいます。各症状のみられる頻度に最も近い回答欄にチェックをつけてもらいましょう。

2 パートAを採点します。パートAのグレーで色づけした回答欄に**4つ以上チェックがついている場合**、患者さんは成人期のADHDに該当する症状を有している可能性が高いので、さらなる診察が必要です。

3 パートBへの回答から、患者さんの症状に関するさらなる情報を得ることができます。グレーで色づけした回答欄へのチェックに特に注目しましょう。症状の頻度がADHDを予測する鋭敏さは質問によって異なります。パートBの12の質問には診断的な意義はありません。パートAの6問がADHDを最も鋭敏に予測でき、スクリーニングとして最適です。

機 能 障 害

- 1 患者さんとともに症状チェックリストの全体を見直し、症状に関連する機能障害のレベルを評価します。
- 2 職場・学校、社会、家庭での状況について考慮します。
- 3 症状の頻度はしばしば症状の重篤さとも関連しているので、症状チェックリストは機能障害のアセスメントの補助にもなります。患者さんの症状の頻度が高い場合は、それらの問題が職場での能力、家事、配偶者・重要な他者との人間関係にどのような影響を与えているかを患者さんに説明してもらいましょう。

病 歴

これらの症状やそれに近い症状が小児期に存在したかどうかを評価します。成人期ADHDでは小児期に正式な診断を受けている必要はありません。患者さんの病歴を評価するにあたって、注意や自己コントロールの問題が人生の早期にあらわれ、持続的であることを確認しましょう。小児期から持続している顕著な症状もあるはずですが、症候学的にみて診断基準を満たすほどである必要はありません。

成人期のADHDの自己記入式症状チェックリスト (ASRS-v1.1)

- パートA、パートBのすべての質問に回答してください。
- それぞれの症状がみられる頻度に最も近い回答欄にチェックをつけてください。

氏名	日付
----	----

下記のパートAおよびBのすべての質問に答えてください。 質問に答える際は、過去6ヵ月間におけるあなたの感じ方や行動を最もよく表す欄にチェック印を付けてください。 医師に面談する際にこれを持参し、回答結果について相談してください。	全くない	めったにない	時々	頻繁	非常に頻繁
1. 物事を行なうにあたって、難所は乗り越えたのに、詰めが甘くて仕上げるのが困難だったことが、どのくらいの頻度でありますか。					
2. 計画性を要する作業を行なう際に、作業を順序だてるのが困難だったことが、どのくらいの頻度でありますか。					
3. 約束や、しなければならない用事を忘れたことが、どのくらいの頻度でありますか。					
4. じっくりと考える必要のある課題に取り掛かるのを避けたり、遅らせたりすることが、どのくらいの頻度でありますか。					
5. 長時間座っていなければならない時に、手足をそわそわと動かしたり、もぞもぞしたりすることが、どのくらいの頻度でありますか。					
6. まるで何かに駆り立てられるかのように過度に活動的になったり、何かせずにいられなくなることが、どのくらいの頻度でありますか。					
パートA					

7. つまらない、あるいは難しい仕事をする際に、不注意な間違いをすることが、どのくらいの頻度でありますか。					
8. つまらない、あるいは単調な作業をする際に、注意を集中し続けることが、困難なことが、どのくらいの頻度でありますか。					
9. 直接話しかけられているにもかかわらず、話に注意を払うことが困難なことはどのくらいの頻度でありますか。					
10. 家や職場に物を置き忘れたり、物をどこに置いたかわからなくなって探すのに苦労したことが、どのくらいの頻度でありますか。					
11. 外からの刺激や雑音で気が散ってしまうことが、どのくらいの頻度でありますか。					
12. 会議などの着席していなければならない状況で、席を離れてしまうことが、どのくらいの頻度でありますか。					
13. 落ち着かない、あるいはソワソワした感じが、どのくらいの頻度でありますか。					
14. 時間に余裕があっても、一息ついたり、ゆったりとくつろぐことが困難なことが、どのくらいの頻度でありますか。					
15. 社交的な場面でしゃべりすぎてしまうことが、どのくらいの頻度でありますか。					
16. 会話を交わしている相手が話し終える前に会話をさえぎってしまったことが、どのくらいの頻度でありますか。					
17. 順番待ちしなければならない場合に、順番を待つことが困難なことが、どのくらいの頻度でありますか。					
18. 忙しくしている人の邪魔をしてしまうことが、どのくらいの頻度でありますか。					
パートB					

製造販売元(資料請求先)

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086 神戸市中央区磯上通7丁目1番5号

Strattera®、ストラテラ®はEli Lilly and Companyの登録商標です。禁無断転写 ©2013 Eli Lilly Japan K.K.

STR-P151 (R0)
2013年5月作成